



## 「基本が大事」の本当の意味

例年のことですが、真新しい高校の制服姿で塾に寄ってくれる新高校 1 年生が何人もいます。楽しく充実した 3 年間で過ごしてほしいと願います。新中学 1 年生も部活の本入部がだいたい決まり、中学生としての生活リズムができてきたところです。ただ連休中も部活があったりして、体力的にきつく体調を崩しやすい時期でもあるので気をつけてください。

さて、学年のはじめには学習することも多く、それがすんなり理解できないたびに「もう一度基本からやり直さないといけないかな」と思う人も多いようです。何かにつけて「基本が大事」と周りから言われるし、あまり楽しくはないけれどとりあえず教科書の基礎問題のところをもう一度やっておくかとなる訳です。しかし、それで単純に成績が上がらないのは実感していますね。よく陥りがちな、できる問題だけをもう一度なぞって終わりというだけではあまり効果はありません。ある問題を目の前にした時に、しまっておいた引き出しから基本の考え方をすっと取り出せるかどうかポイントになります。応用問題にしてもほとんどは基本問題の組み合わせであり、そのパターンをちょっと変えるだけで急に難しい問題に見えてしまっているからです。

「基本が大事」の本当の意味は次の 3 段階のことが身についているかどうかです。よく言われる「わかるとできるは違う」ということにもつながります。第 1 段階はもちろん基本的な作業が完全にできるようになるかどうかです。数学なら加減乗除、とくに文字式を含む分数の基礎計算は高校生ですらあいまいなままの人がいます。第 2 段階は再現できるかどうかです。1 回できてもしばらくして同じことが 2 度とできない状態ではどうしようもありません。そして第 3 段階は与えられた問題と結びつけられるかどうかです。数学の文章問題を例にとると、式は立てられるのにどういう計算をどんな順序でやればいいのかで迷わないようにしなければなりません。使いこなせてこそ基本というのはスポーツでも日常生活でも一緒です！